

藤田医科大学研究推進本部イノベーション推進部門

社会実装看護創成研究センター 2022 年報

Research center for implementation nursing science initiative
Annual report 2022. January 1 – December 31



FUJITA HEALTH UNIVERSITY

目 次

1. メンバー	1
2. センターの概要	1
3. 研究活動実績	3
3-1. 藤田医科大学アクションプランに基づく研究活動	
3-2. 新たな研究テーマへの取り組み	
4. 教育活動実績	13
4-1. 学部教育	
4-2. 大学院教育	
4-3. 社会実装看護創成研究センター　ゼミナール	
5. 社会的活動実績	15
5-1. 主な学会での活動	
5-2. 主たる活動実績	
6. 外部資金獲得	24
7. 研究業績	25

社会実装看護創成研究センター 2022 年報

Research center for implementation nursing science initiative Annual report 2022. January 1 – December 31

1. メンバー

センター長 教授 須釜 淳子

専任教員 教授 村山 陵子 (4月1日付)、准教授 臺 美佐子
講師 小柳 礼恵、光田 益士、三浦 由佳 (4月1日付)

研究補助員 池田 真弓 (2022年11月～)

大学院生 (2022年度入学)

博士課程1年 佐野 友香、間脇 彩奈

修士課程1年 田村 茂、西本 由美

学部生 (卒業研究)

4年 奥山 奈々子、グエンティフォン、小塚 菜々穂、竹内 しほ、村田 千純

研究員 劉 雨

(名古屋大学大学院保健学専攻博士前期課程 研究委託 2021年10月1日～)

アドバイザー 真田 弘美 教授

(石川県立看護大学 学長)



写真 1-1. 卒研究生と指導担当教員



写真 1-2. 研究員と指導担当教員

2. センターの概要

2021年4月1日より藤田医科大学保健衛生学部「社会実装看護創成研究センター」が新設された。2022年4月より大学組織再編に伴い、研究推進本部イノベーション推進部門(齋藤邦明・部門長)に配置換えとなった。

臨床現場の技術革新が進む中、看護領域においてもロボットや Information and Communication Technology (ICT)、Artificial Intelligence (AI) などのテクノロジーの有効活用が求められている。一方で、医工連携と異なり、看工連携の社会実装に関する理論および方法論は、未だ確立されていないのが現状である。本センターでは、大学病院や地域包括ケア中核センターと協力し、看護実践の場でこれらの研究を推進するとともに、次世代を担う人材の育成にも取り組む。

体制は、臨床のニーズや課題の抽出、データベース化および実装研究を行う共創型研究部門と、同部門が抽出した課題に対し看護理工学からアプローチする課題焦点型研究部門の2部門である(図1-1)。生体・生活情報を導出するシステム構築やデバイス開発を通じて、健康増進や保健・医療、さらには地域包括ケアやまちづくりに寄与することをめざす。

なお、ミーティング室、実験室(写真2-1)は9号館5階に設置されている。

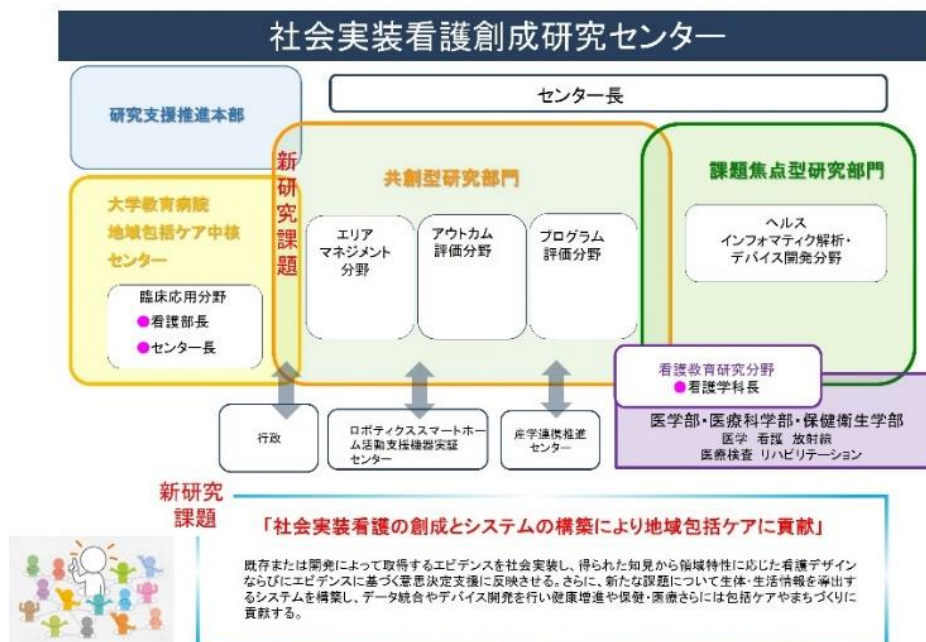


図1-1. 社会実装看護創成研究センター体制図

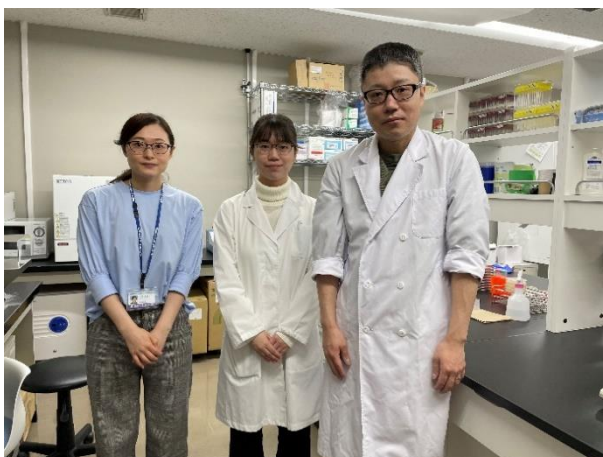


写真2-1. 社会実装看護創成研究センター
実験室

2022年は2名の教員（村山陵子教授、三浦由佳講師）が加わり、6名の教員でセンターの活動を推進した。毎週火曜日午後に研究ミーティングを開催し、センター専任教員が主導する研究の進捗、論文抄読、学術雑誌の最新情報の共有、実装科学の基礎学習を行った。

教育病院との連携を深めるため、毎月1回、第1教育病院看護部（眞野恵好統括看護部長、他）にて、第2～4病院看護部（相原晶子看護部長、松嶋文子看護部長、小島菜保子看護部長、他）ともオンラインで接続し、臨床研究に関する打ち合わせを行った（写真2-2）。



写真 2-2. 看護部との定例ミーティング

3. 研究活動実績

3-1. 藤田医科大学アクションプランに基づく研究活動

【目指す姿】

世界一独創的な研究拠点へ：未来社会の期待に応える次世代研究の推進
世界に誇れる「藤田の看護」を創成する

【中期目標】

看護理工学を基盤とした看護技術開発の推進、および開発した技術の社会実装の手法を確立しエビデンス・プラクティスギャップを埋める (PI: principal investigator)

1) リンパ浮腫管理成功に向けたエコーを用いたアドバンスドリンパ浮腫ケアモデルの確立と実装 (PI: 臺 美佐子)

【リンパ浮腫のケア選定のためのエコーアルゴリズムの考案と実装】

リンパ浮腫管理におけるエコー評価は、診断・重症度評価・ケア選択と各目的に応じて国内外で検討が進められている。本研究では、保存療法を主軸としたリンパ浮腫ケア選定に向けて、真皮・皮下組織の内部性状を評価する"リンパ浮腫ケア選定のためのエコーアルゴリズム"を考案した。

"リンパ浮腫ケア選定のためのエコーアルゴリズム"は、文献レビュー、グループフォーカスインタビュー、症例集積により考案し、症例経過の追跡によりケア内容の検討とアウトカム改善を検証した。その後、実装研究のための統合フレームワーク (CFIR) に基づき、急性期病院 1 施設のリンパ浮腫チームに導入し、12 カ月間にわたり CFIR が提示する構成概念 (介入特性・外的／内的セッティング・個人特性・プロセス) を記述し分析した。

アルゴリズムは、リニア型プローブ・10-18MHz 周波数のエコーで真皮・皮下組織を観察し、層構造、浅筋膜、敷石様像、真皮低エコー所見の特徴から、圧迫療法やリンパドレナージの追加といったケア計画検討をアシストする形式とした (図 3-1)。開始時は外的セッティング・個人特性 (所定のトレーニング・エコー準備)、12 カ月間の期間中は介入特性 (有効な適応症例の絞り込み)、内的セッティング (チーム内の共有・風土づくり) が構築され、アルゴリズムの導入と維持が可能となった。

本研究での“リンパ浮腫のケア選定のためのエコーアルゴリズム”実装過程で構築された各構成概念を促進要因の実装戦略の一部とし、国内外への多施設へ実装拡大を目指す。現在、上記研究対象とは異なる急性期病院 1 施設での実装を図っており、これらの知見を基に、ワイヤレスエコーによる画像観察、社会実装看護創成研究センターの産学連携で構築中のリンパ浮腫ケア遠隔システムへの搭載やケアリコメンデーションの自動化を計画している (図 3-2)。なお、これらの活動は、社会実装看護創成研究センター、東京大学医学部附属病院形成外科、東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学/創傷看護学、川崎医科大学附属病院形成外科、藤田医科大学病院リハビリテーション科が協働し、実施した成果であり、第 6 回日本リンパ浮腫治療学会学術集会での優秀演題賞受賞に至った。

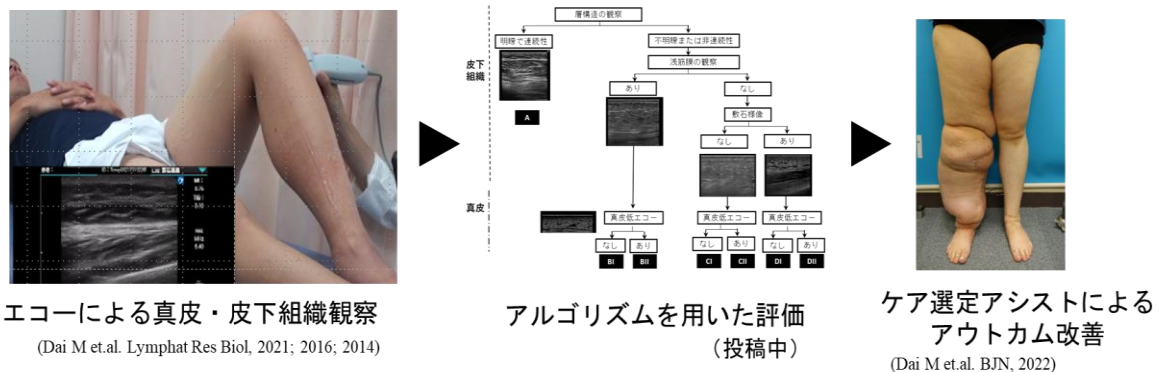


図 3-1. エコーによる観察とアルゴリズムの活用

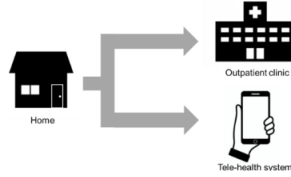


図 3-2. 今後の展望

2) 携帯型エコー使用した排便アセスメントによりケアが選択できる看護師の育成と上記看護師を含めたチーム医療体制の構築 (PI: 小柳 礼恵)

排泄に関するケアの向上には「排尿自立支援加算」「IAD のベストプラクティス」により対策が取られている。しかし、便秘は高齢者の有病率が高く死亡リスクも高いとされているが未だエビデンスがある対策が普及していない。

2025 年問題も注目される中、超高齢社会となる本邦では病院、在宅が包括的にチーム医療として便秘対策に取り組み、アセスメントとケア方法のエビデンス構築と実装研究を進める必要がある。昨年に引き続き、当センターは排泄ケアの質の向上、医療経済への貢献を目標として以下を実施した。

(1) 関連学会と連携しエビデンスに基づく排便ケアの啓発

・公益社団法人 日本看護科学学会

「看護ケアのための高齢者の便秘時の大腸便貯留アセスメントに関する診療ガイドライン」作成委員会委員 須釜淳子、小柳礼恵

・公益社団法人 日本創傷・オストミー・失禁管理学会

便秘対策アドホック委員会 須釜淳子、小柳礼恵

以上の活動により、排便ケアの質の向上、エビデンスに基づいた排便ケアの普及を推進している。

(2) 高齢者を対象とした排便ケアに関するチーム医療の普及

・国立研究開発法人長寿医療研究センター 排便サポートチームの設置と協働 (写真 3-1)

超高齢化社会が進む中、認知機能が低下した高齢者のニーズと医療者のアセスメントにより患者へ適切な排便ケアの提供が課題となっている。その課題を解決するために上記施設と協働して排便ケアの質の向上と推進を実施している。



写真 3-1.

国立長寿医療研究センター:排便サポートチーム

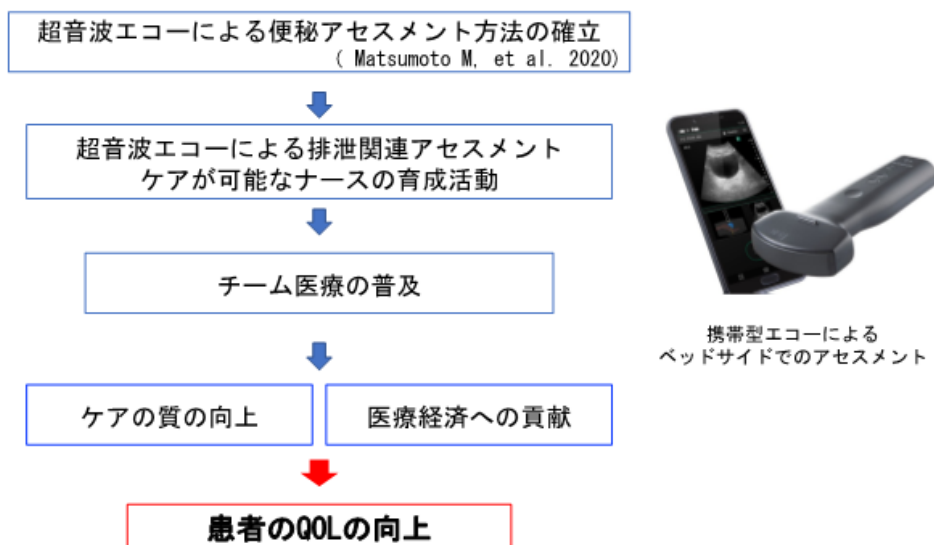
排便サポートチーム：国立研究開発法人長寿医療研究センター
病院：松浦俊博、山田理、竹内さやか、西崎成紀
客員研究員：小柳礼恵

(3) 排便ケアに関わる看護師への教育活動

日本創傷・オストミー・失禁管理学会 便秘対策アドホック委員会の活動の一環である「排便管理講習会（エコー講習会含む）」の排泄に関するエコー講習会では、排便アセスメントエコーの講師として講習会に協力している。

エコー講師：三浦由佳、小柳礼恵

排便管理講習会（日本創傷・オストミー・失禁管理学会）：小柳礼恵



3) 看護理工学的アプローチによる次世代型アドバンストスキンケアモデルの確立 (PI: 光田 益士)

看護学と理工学との融合型研究を通じて、看護技術の定量化・可視化・効率化、および未来に向けた新たな看護の価値創造への貢献を目指す。2021年度に引き続き、2022年度も藤田医科大学第1教育病院看護部との共同研究、産学連携による企業との研究、および外部研究者を交えた連携研究を多数実施した。2022年度より新たに藤田医科大学七栗記念病院看護部との共同研究を開始した。以下、3つの基幹研究を報告する。

(1) 褥瘡再発予防の評価モデル開発

褥瘡発生および褥瘡再発に関与することが分かっている外力（ずれ力、摩擦力、圧力）およびその複合力を同時に定量化するための評価モデル開発を試みた。ヒト皮膚の厚みおよび弾性を模倣した皮膚モデルを用いて、多層シリコンフォームドレッシング材の使用により外力および複合力の低減を認めた。

（２）失禁関連皮膚炎の生物学的・生理学的リスクファクター探索

失禁関連皮膚炎の予防を目的に新たなアドバンストスキンケア手法の開発を試みている。本研究では排尿自立支援が課題となっている脳卒中患者に着目し、これまでに脳卒中入院患者の失禁関連皮膚炎の有病率が約 50%にも達すること、ならびにくつかの関連する患者特性について調査してきた。本年度は失禁関連皮膚炎の生物学的・生理学的リスクファクター探索を行うための要素技術開発を行った。

（３）褥瘡ケアにおける社会実装科学

在宅療養者を中心とした地域における医療・介護の連携推進を目指す一環で、これまでに在宅での褥瘡予防に利用可能なリスクアセスメントスケールを開発した。本年度はそのスケールを活用するための予防プログラムを開発し、書籍発刊に至った。

４）第 6 のフィジカルアセスメントツールとしてのエコー可視化技術の開発・普及：末梢静脈カテーテル留置技術（PI: 村山 陵子）

センター開設時より目標とした「看護理工学を基盤とした看護技術開発の推進、および開発した技術の社会実装の手法確立」では、最も活用を促すツールとして超音波検査装置（エコー）に着眼し、様々な場面でのアセスメント技術として導入を推進している。2022 年度からは、末梢静脈カテーテル留置の際に活用するツールとして技術の普及の段階に入った。

（１）実装研究計画立案・実施（藤田医科大学病院）

本テーマは、エコー活用を推奨すべき看護技術のなかでも、保健師助産師看護師法第五条に規定する「診療の補助行為」に該当する、末梢静脈へ留置針にて穿刺、カテーテルを留置する行為である。そのため、カテーテル留置技術にエコーを取り入れたアルゴリズムは開発したものの、臨床現場への実装は段階的に、そして現場のニーズに合致した活用方法を見出すことで、初めて技術の普及が可能になると考えた。4 月より藤田医科大学第 1 教育病院での実装研究を実施すべくフィールド開拓から開始した。研究倫理審査での承認を得たのち、12 月現在、外来薬物療法センター所属看護師の研究参加の同意を得たうえで、技術導入を進めている（写真 3-2）。2022 年度内には実際に臨床にてエコーをアセスメントツールとして活用した場合のデータを取得する予定である。

（２）エコーを用いる可視化技術の教育体制のモデルの確立

フィジカルアセスメントのツールとしてエコーを用いることは、より深く解剖学的知識を身に付けられる機会となる。また近年、デジタル機器の発達は目覚ましく、義務教育での取り入れが加速していることもあり、看護基礎教育をうける学生の機器取り扱いへの抵抗感はなく習得のスピードも速い。したがって、看護基礎教育の段階で「聴診器」のようにエコーを使うことができれば、看護師として臨床でケア

を行う際に、様々な場面で活用することが可能となる。したがって、看護理工学会に所属する複数の大学教員との共同研究として、教育体制のモデル構築に取り組んでいる。2022年度内には各大学での教育の実際と次年度教育内容・方法のモデル構築へと進める予定である。

(3) エコーを用いたカテーテル留置技術をサポートする周辺機器開発

医療機器・材料開発企業との共同研究により、昨年度までにはPIの前任の大学にて、より血管径の大きい静脈がある上腕に留置できるカテーテル(テルモ株式会社)を、また血管を表示し、血管径・深さの測定値が表示されるAI (artificial intelligence) 機能を開発、搭載した携帯型エコー(富士フイルムメディカル株式会社)はすでに市販されている(図3-3)。さらに今年度も引き続き、エコー透過性に優れ、しかも穿刺の際に同時に使用できるフィルムドレッシング(ニチバン株式会社)の開発を行ってきた。フィルムドレッシングは2023年1月上市予定である。2022年はそれらの機器の安全性検証、効果検証結果の公表までであったが、2023年にはそれらを活用することで技術の普及がさらに促進できるか、実証研究を計画していく予定である。



写真 3-2. 末梢静脈カテーテル
穿刺時にエコーを活用する手技の



図 3-3. AI (artificial intelligence) 機能を開発、
搭載した携帯型エコー画像例

<https://www.fujifilm.com/jp/ja/healthcare/ultrasound/iviz-air/iviz-air-linear/application>

5) エコーを用いた嚥下視える化データベースに基づく肺炎予防効果の実装研究
(PI: 三浦 由佳)

AI を用いて誤嚥物・咽頭残留物が自動で着色されたエコー画像を含むデータベースから、誤嚥性肺炎の予防のためのケア介入アルゴリズムを提案する仕組みを作り、介入の実装評価を行うことが目的である。AI を用いたエコーによる咽頭残留物の定性・定量的評価方法の開発を目指し、リハビリテーション学科と共同し 3D-CT 画像とエコーの同時撮影による評価研究を開始した。また、ケア介入アルゴリズムの実装に向け、訪問看護師を対象としたエコーを用いた誤嚥性肺炎予防ケアのニーズ調査を実施した。そして、産学連携のもと、エコー技術の訓練を受けた看護師自身が撮影したエコー画像をサーバーに上げ、研究者からのフィードバックを受けられるシステムを作成した。このシステムを用いて AI 作成のもととなるデータを現在集積中である。

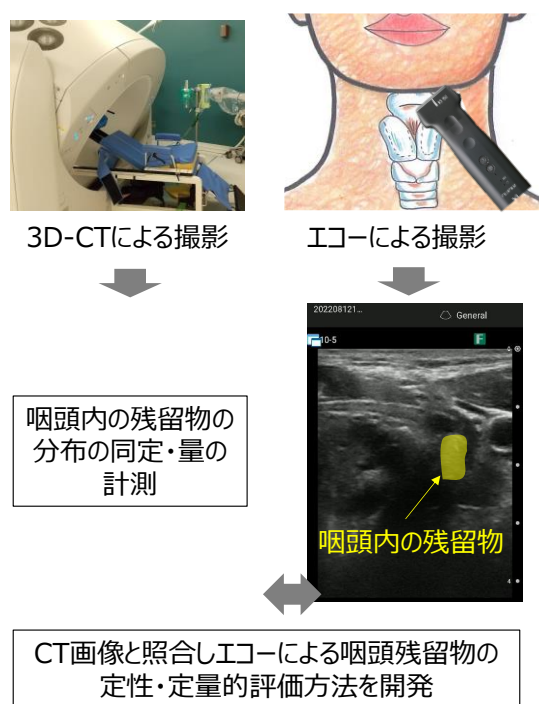


図 3-4. 3D-CT画像とエコーの同時撮影による評価



図 3-5. エコー画像蓄積システム

3-2. 新たな研究テーマへの取り組み

1) 内閣府「先端的サービスの開発・構築等に関する調査事業」(ポータブル超音波診断装置の活用による在宅ケアでの看護アセスメント社会実装実験) (PI: 三浦由佳、須釜 淳子)

近年、小型化された超音波画像診断装置(以下、エコーという)を利用した診断が注目されている。特に認知症等を有する高齢者は、自ら症状を伝えることが難し

く、施設や在宅においては適切な治療やケアが十分提供できていない現状である。利用者の QOL 向上のためには、エコーを用いた“可視化”により、医師・医用画像の撮影を行う技師、日々のアセスメントとケアを行う看護師など、多職種の共通理解のもとで、最適な治療やケアの提案と実践が重要である。

簡便性、非侵襲性、リアルタイム性に優れた携帯型のエコーを利用する実践例が近年報告されるようになってきたが、下記の様な課題が指摘されている。

- エコー診断実践に関する看護師のスキル向上
- 取得したエコー画像に対する診断標準化と省力化の両立
- 診断に基づく迅速な医療介入や介護処置の提供

これらの課題に対して、本提案において① 看護師を対象としたエコー診断技術向上の為の遠隔教育プログラムの提供、② AI 診断支援ソフトの有用性検証、③ ベッドサイド診断の実現によりタイムラグの無い処置の実践、を試行し、そのデータを体系的に収集・評価することをパイロット事業として実施する。

本提案は、学術（藤田医科大学）、企業（富士フイルムメディカル）、自治体（長野県茅野市、愛知県幸田町他）が連携し、さらに医療専門家をもって構成する評価委員会を設け臨床データの収集・評価を行い報告としてまとめた。

社会実装参加訪問看護ステーション

ステーション名	ハートフリーやすらぎ	幸田岡崎	豊明	緑	日進東郷
住所	大阪市住吉区	額田郡幸田町	豊明市沓掛町	名古屋市緑区	日進市栄
調査事業担当者	大橋奈美、田端支善		松下寛代、西村和子、都築晃、金田嘉清		
排泄ケアコース受講者数	16	3	6	2	2
嚥下ケアコース受講者数	10	1	0	0	0



写真 3-3. オンサイトでの技術講習会(講義・演習)



図 3-6. Zoom を利用した遠隔教育(技術講習会)

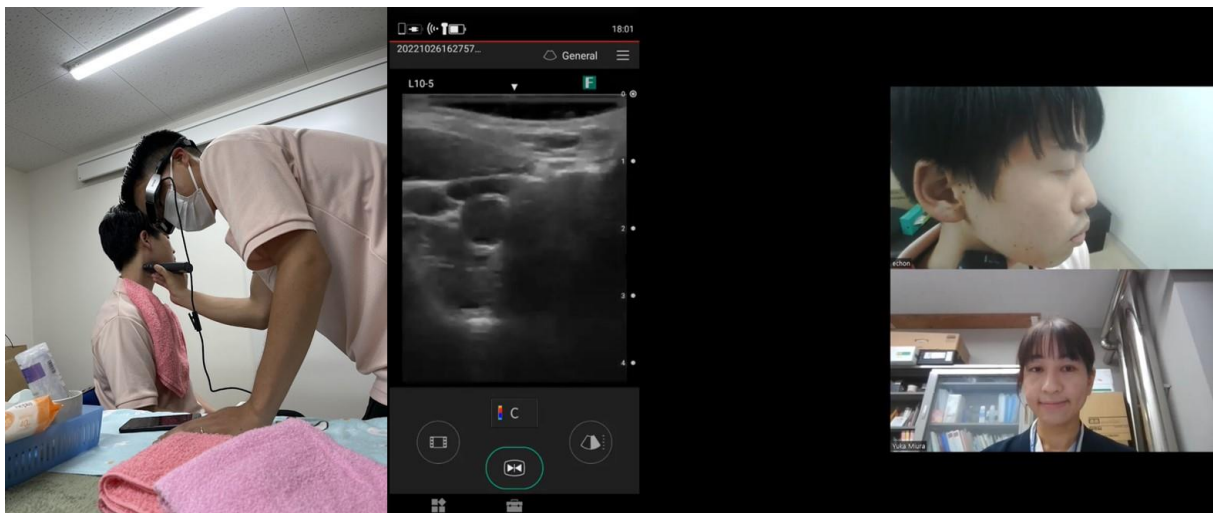


図 3-7. Zoom とスマートグラスを利用した遠隔教育(客観的臨床能力評価:OSCE)

2) VR 教材を取り入れた教育プログラム開発 (PI: 三浦 由佳)

非侵襲的かつリアルタイムに体内を可視化できるエコー技術は、フィジカルアセスメントに活用することで様々な看護ケアの質を向上できると期待が高まっている。看護師養成課程の段階から技術習得を経験することは、看護師におけるエコーを用いたケアの実装をより促進するだろう。成人看護学分野および企業と共同し、学部学生向けの、末梢静脈留置カテーテルや膀胱内の尿などのエコー画像を身体のどの部位にどのようにプローブを当てれば取得できるのか、リアルに3次元空間においてイメージできるVR教材を作成した。この教材を用いた学部学生の学習効果を今後評価予定である。

なお本事業は、大学改革推進等補助金ウイズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業の一環として看護学科成人看護学講座（中村小百合教授、織田千賀子講師他）と共同で行った。成果の一部を第42回日本看護科学学会学術集会・交流集会にて発表した（広島、2022年12月4日）。



写真 3-4. 第42回日本看護科学学会学術集会 交流集会発表メンバー

4. 教育活動実績（2022年度として掲載）

4-1. 学部教育

科目名	開講時期	担当者†
基礎科目		
基礎ゼミ	1年全期	光田、三浦
基礎専門科目		
コンプリメンタリーセラピー	2年後期	臺
専門科目		
アセンブリ II ‡	2年全期	光田、小柳
看護管理学	4年前期	小柳
基本看護技術 I	2年前期	須釜
基本看護技術 II	2年後期	村山、臺、三浦
卒業研究	4年全期	須釜、臺、小柳、光田、三浦、（ラボ体験：村山）
リハビリテーション学科		
一般臨床医学	2年前期	小柳

†：授業・演習の一部でも担当した場合を記載， ‡：専門職連携教育

4-2. 大学院教育

科目名	開講時期	担当者†
保健学研究科保健学専攻 修士課程		
共通科目		
看護研究法	前期	須釜、臺、小柳、光田、村山、三浦
看護理論	後期	臺、小柳
看護学領域（看護教育学分野）		
看護教育学特論 I	前期	須釜、臺、小柳、光田、村山、三浦
看護教育学特論 II	後期	須釜、臺、小柳、光田、村山、三浦
看護教育学演習 I	前期	須釜、臺、小柳、光田、村山、三浦
看護教育学演習 II	後期	須釜、臺、小柳、光田、村山、三浦
看護教育学特別研究	全期	須釜、村山、臺
保健学研究科医療科学専攻 博士後期課程		
共通科目		
医療科学概論	前期	須釜
専門科目		
保健医療専門職連携学特論	前期	須釜
保健医療専門職連携学演習	後期	須釜、村山
保健医療専門職連携学特別研究	全期	須釜、村山

†：授業・演習の一部でも担当した場合を記載

4-3. 社会実装看護創成研究センター ゼミナール

2022年度から大学院生を迎えたことを受け、5月よりゼミナール（通称ゼミ）を開始した。ゼミは次の必修単位取得科目を兼ねるものである。

- 看護教育学演習 I, II (2+2 単位)
- 看護教育学特別研究 (10 単位)
- 保健医療専門職連携学特別研究 (6 単位)

1) 出席メンバー

担当教員：須釜 淳子、村山 陵子、臺 美佐子、小柳 礼恵、光田 益士、三浦 由佳

連携教員：竹原 君江、中井 綾乃 (6月～)

博士課程1年：佐野 友香、間脇 彩奈

修士課程1年：田村 茂、西本 由美

木下 由里恵 (名古屋大学大学院博士前期課程)

修士課程2年：劉 雨 (名古屋大学大学院博士前期課程)

2) 概要

- I. 文献を読む力をつけるために、文献を精読する機会を提供する。さらに、教育に関する報告書やガイドラインなどを読む機会を提供する。そのことにより、看護教育を取り巻く現状を理解し、研究テーマを見いだすことを支援する。
- II. 文献のクリティークを通して、看護教育学研究ならびに社会実装看護研究を進めるために必要な知識とクリティカルな思考を身につけられるよう、支援する。その過程で、研究を進める中で生じる疑問や課題を解決するための能力を養えるよう、課題を提示する。
- III. 研究課題を明確化し、研究計画を作成する。次に、作成した研究計画を倫理委員会に提出し承認を得る。さらに、研究を実施し参考論文を作成し公表するとともに、修士・博士論文としてまとめ、発表を行う。

3) 内容

研究報告、論文紹介、論文クリティークを準備、発表、ディスカッション基本的にオンライン (Teams) にて実施した。

4) 2022年開講日時

5月 21日

6月 25日

7月 2日、9日、30日

8月 6日

9月 3日、10日、24日、26日

10月 3日、17日、24日

11月 7日、14日、21日、28日

12月 5日、12日、19日 (9/24までは13:00～、9/26からは18:00～)

5. 社会的活動実績

5-1. 主な学会での活動

1) 学会での役割

<日本看護科学学会>

須釜淳子	
役割	理事、看護ケア開発・標準化委員会 委員長、COVID-19 看護研究等対策委員会委員長
成果	<ul style="list-style-type: none">● ガイドライン作成の遂行、日本薬理学会との共同学術企画 スコーピングレビュー：インスリンボールの遂行● 過去2回の会員を対象とした調査データの寄託、等
臺美佐子、三浦由佳	
役割	看護ケア開発・標準化委員会事務局・ガイドライン作成グループ・システムティックレビューチーム
成果	日本看護科学学会発行「看護ケアのための摂食嚥下時の誤嚥・咽頭残留アセスメントに関する診療ガイドライン」のJapan Journal of Nursing Science への論文公開、Minds ホームページでの公開に貢献した。 また、「看護ケアのための高齢者の便秘時の大腸便貯留アセスメントに関する診療ガイドライン」のシステムティックレビューを遂行し、現在進行中のガイドライン作成に貢献した。
村山陵子、臺美佐子	
役割	査読委員
成果	日本看護科学学会誌発行に向けた論文査読に貢献した。
小柳礼恵	
役割	「看護ケアのための高齢者の便秘時の大腸便貯留アセスメントに関する診療ガイドライン」ガイドライン作成委員会・委員
成果	ガイドライン作成に貢献した。

<国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会>

須釜淳子	
役割	庶務担当理事、理事長
臺美佐子	
役割	庶務担当理事、事務局
成果	研究協議会の運営に貢献した。

<日本リンパ浮腫治療学会>

臺美佐子	
役割	エビデンス創成委員会、評議員
成果	委員会主導で実施する研究課題決定に貢献した。

<看護実践学会>

須釜淳子	
役割	理事長
村山陵子、臺美佐子	
役割	査読委員
成果	看護実践学会誌発行に向けた論文査読に貢献した。

<看護理工学会>

須釜淳子	
役割	理事長、看護系学会等社会保険連合担当理事
村山陵子	
役割	庶務担当理事、評議員、学術委員会・委員
成果	学術委員会プロジェクトの成果として以下を制作し発刊した。 「エコーを用いる 点滴トラブル予防を目指した末梢静脈カテーテル留置技術ベストプラクティス. 照林社, 令和4年4月」
光田益士	
役割	評議員、将来構想委員会・委員
成果	会員増を目指した広報資料を作成し、学会ホームページに掲載した。

<日本創傷・オストミー・失禁管理学会>

須釜淳子	
役割	副理事長、編集委員会・委員長
村山陵子	
役割	評議員、査読委員
成果	学会誌発行に向けた論文査読に貢献した。
小柳礼恵	
役割	理事、アドホック委員会・委員長
成果	1) 排便管理に関する講習会の開催 ● ブラッシュアップセミナー ● 排便管理エコー講習会開催 2) 研究の実施：排便管理に関するチーム医療の効果検証

<日本褥瘡学会>

須釜淳子	
役割	理事、在宅褥瘡予防に関するアドホック委員会・委員長
成果	アドホック委員会の開催と円滑な運営に貢献した。
小柳礼恵	
役割	評議委員
光田益士	
役割	アドホック委員会・ステアリング委員
成果	アドホック委員会の開催と円滑な運営に貢献した。

<日本褥瘡学会 中部地方会>

須釜淳子	
役割	代表世話人（～2022年6月） 監事（2022年6月～）
成果	定例総会開催

<日本褥瘡学会 在宅ケア推進協会>

光田益士	
役割	評議員、中部・北陸地区コアスタッフ

<日本創傷治癒学会>

須釜淳子	
役割	理事、COI委員会・委員長
成果	第52回日本創傷治癒学会 2022年11月19・20日、JPタワー名古屋ホール&カンファレンス（会長・須釜淳子、実行委員長・事務局長・光田益士）

<日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会>

小柳礼恵	
役割	世話人

<日本助産学会>

村山陵子	
役割	査読委員
成果	学会誌発行に向けた論文査読に貢献した。

2) 学術集会

<第 52 回日本創傷治癒学会>

須釜淳子、村山陵子、臺美佐子、小柳礼恵、光田益士、三浦由佳	
役割	大会長（須釜淳子）、実行委員長・事務局長（光田益士）、実行委員（村山陵子、臺美佐子、小柳礼恵、三浦由佳）
成果	主催校として、第 52 回日本創傷治癒学会の成功に向けた企画立案・実行・運営に教員全員が貢献した。3 年ぶりの現地開催を行い、参加者は 300 名を超え、盛況のうちに終了した。

<国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第 11 回学術集会>

臺美佐子	
役割	実行委員
成果	実行委員として学術集会の企画・運営に貢献した。

<第 31 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会>

臺美佐子	
役割	査読委員
成果	学術集会開催に向けた演題抄録査読に貢献した。

<26th East Asian Forum of Nursing Scholars>

村山陵子、臺美佐子	
役割	査読委員
成果	EAFONS2023 開催に向けた演題抄録査読に貢献した。



写真 5-1. 第 52 回日本創傷治癒学会 集合写真

5-2. 主たる活動実績

1) 病院看護研究支援

【研修会・講習会等】

4 拠点病院

(1) スキルアップ支援「看護研究支援(Stage1)コース」

第1回9月21日(水) 第2回11月25日(金)

講師：村山陵子、小柳礼恵

研修目的：研究論文から新しい知見を得る方法を理解し実践できる

研修目標 ①論文を検索できる

②論文の読み方を理解し、論文の内容を他者に説明できる

③論文から得られた知見についてクリティークし、要約できる

参加対象者：部署の研究推進に関する役割を今後担っていく者

(2) 2022年度臨床看護研究会

2022年1月28日 講演：臺美佐子

ばんたね病院

(1) ばんたね病院看護部と社会実装看護創成研究センターとの共同プロジェクト「看護実践報告」にトライしよう！2022年11月17日～2023年6月(予定)

講師：須釜淳子

【病院職員依頼共同研究：マッチング】

2023年2月末日現在

- ・論文投稿済み：2件
- ・研究実施中：5件

2) がん看護チーム活動支援

がん看護の質向上を目的として、2021年9月に4病院(藤田医科大学病院、ばんたね病院、七栗記念病院、岡崎医療センター)と社会実装看護創成研究センターとが連携し、がん看護チームを構築した。がん看護チームは、4病院のがん分野の認定看護師・専門看護師14名(がん専門看護師、がん性疼痛看護認定看護師、がん化学療法認定看護師、がん放射線療法看護認定看護師、緩和ケア認定看護師、乳がん認定看護師)が主軸となって運営し、社会実装看護創成研究センターの須釜、村山、臺が学術活動への支援を実施している。今年度、月に1回の定例会議を開始し(図5-1)た。また、がん看護チームが立案した目標である、14名全員が研究、症例報告、実践報告等、1件以上発表するという目標を達成した。当センターでは、この目標を共有し、毎月1回の定例会議開催で助言や情報提供を行うことに加え、学術集会発表5件(学会発表時の様子を写真5-2, 5-3に示す)、学園内発表3件、国際

学術誌への論文投稿 2 篇への指導を実施した。

今後、これまでの研究の発展や新たな共同研究を通し、藤田医科大学の 4 病院は
もちろんのこと、国内外のがん看護の質向上を目指していきたい。



図 5-1. オンラインでの定例会議の様子



写真 5-2. 第 10 回看護理工学会学術集
会(2022 年 10 月, 1 演題口演発表)

写真 5-3. 第 11 回国際リンパ浮腫フレーム
ワーク・ジャパン研究協議会学術集会
(2022 年 11 月, 3 演題口演発表)



3) リハビリテーション科とのリンパ浮腫管理の実践と研究活動

藤田医科大学リハビリテーション科と社会実装看護創成研究センターと協働し、2022年1月にリンパ浮腫管理の質向上を目的としたチーム“CARE Project”を発足した。CARE Project チームメンバーは、リハビリテーション科ではリハビリテーション医学専門の医師である大高洋平教授・尾関恩准教授、理学療法学専門の小山総市朗講師をはじめ、理学療法士、作業療法士らと、社会実装看護創成研究センターの須釜、臺から成る（写真 5-4 にメンバー一部を紹介する）。毎月1回の定例会議を行い、リンパ浮腫アセスメントとして新規にエコーを導入し、リンパ浮腫アウトカムに関する研究を実施している。エコーの実践への導入及びリンパ浮腫アウトカムに関する研究を開始した。

【エコーの実践導入と教育】

エコー準備、医師1名と理学療法士・作業療法士3名へのエコー画像取得方法とアセスメント方法の教育（講義30分、演習30分）、症例集積と画像のフィードバック7例を実施した。

【リンパ浮腫アウトカム研究】

・上肢リンパ浮腫 QOL 評価（LYMQOL 上肢版の日本語版作成）を、社会実装看護創成研究センター・リハビリテーション科・看護学科（キム・チュウアイ助教主導）と協働して開始した。

・リンパ浮腫管理のためのエコーケアアルゴリズムの考案と効果検証（2022年度テルモ研究助成 看護研究 採択）を、社会実装看護創成研究センター・リハビリテーション科で実施しており、現在症例集積中である。

上記、いずれも、今後成果をまとめ、2023年度国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会での発表及び、論文投稿を予定している。



写真 5-4. CARE Project メンバー一部

4) 勉強会の実施

【英語論文抄読会】

看護学科とは、看護学科長（三吉友美子教授）と連携し、参加を希望する教員 9 名と毎月 1 回英語論文抄読会を開催した（写真 5-5、5-6）。また、リハビリテーション学科との共同研究（体圧分散マットレス・須釜）を継続した。



写真 5-5. 抄読会風景



写真 5-6. 英語論文抄読会参加者

【次世代看護研究会】

普段は異なる環境や立場で研究活動に従事しつつも、看護理工学に基づく共通の理念を有する者が交流を深め、ディスカッションを通じて互いに高め合い、ひいては次世代の看護学の発展に資することを目的とした研究会を発足した。特に次世代の看護を担う若手研究者の育成に重点をおくものとされた。

<次世代看護研究会企画ワーキンググループメンバー>

- ・石川県立看護大学：峰松健夫 教授
- ・金沢大学：大江真琴 教授

- ・ 東京大学：仲上豪二郎 教授
- ・ 藤田医科大学：村山陵子 教授
- ・ 横浜市立大学：玉井奈緒 教授

< 第 1 回次世代看護研究会 >

実行委員：東京大学 老年看護学／創傷看護学分野 教員

日 時：2022 年 8 月 29 日(月) 9:30-17:00

場 所：東京大学 本郷キャンパス 医学部南研究棟 鉄門臨床講堂

参 加 費：無料

開催形式：ハイブリッド形式

参 加 校：石川県立看護大学，金沢大学，東京大学，藤田医科大学，横浜市立大学

協 賛：一般社団法人 次世代看護教育研究所

参加者は合計 45 名（現地参加 31 名 オンライン 14 名）で、発表者は 19 名、よどきり医療と介護野町づくり株式会社代表取締役社長 山根匡博先生の特別講演を含んだ。本学からは、教員 8 名、大学院生 6 名全員が参加し、三浦由佳講師、中井彩乃助教が英語にてプレゼンテーションを行った。



写真 5-7. 第 1 回次世代看護研究会

6. 外部資金獲得

科研費（金額は2022年度分）

- 「基盤研究(B)」, 「アドバンストスキンケア開発を目指した創閉鎖後の脆弱な皮膚環境と褥瘡再発との関連」, 須釜淳子代表, 2020-2022年度, 3,900千円.
- 「基盤研究 (C)」, 「リンパ浮腫患者の蜂窩織炎発症・再発要因探索とリスクアセスメントスケール開発」, 臺美佐子代表, 2018-2023年度, 520千円
- 「研究活動スタート支援」, 「尿失禁を有する脳卒中入院患者の失禁関連皮膚炎と細菌バイオフィーム形成との関連性」, 光田益士代表, 2021-2022年度, 1,200千円
- 「基盤研究 (B)」, 点滴トラブル発生を予防する末梢静脈カテーテル留置管理基準: 日本版の開発と普及, 村山陵子代表, 2020-2023年度, 3,120千円
- 「基盤研究 (B)」, 在宅でのエコーを用いた嚥下視える化データベースに基づく介入の肺炎予防効果の検証, 三浦由佳代表, 2022-2025年度, 4,680千円
- 「若手研究」, 急性期病院における1日に必要な“看護師の人数・看護師情報”予測スケールの開発, 小柳礼恵代表, 2022-2026年度, 4,550千円
- 「基盤研究 (C)」, リンパ浮腫患者の弾性ストッキング着用継続に向けたデザインによるアプローチ, 村山祐子代表, 臺美佐子分担, 2022-2024年度, 2022年度分 担金 855千円
- 「挑戦的萌芽」, 異分野融合型研究による白癬に着目した糖尿病足潰瘍アドバンストスキンケア方法の開発, 竹原君江, 須釜淳子, 光田益士分担, 2022-2025年度, 2022年度分 担金 900千円
- 「基盤研究 (C)」, 繰り返し抗がん剤投与を行う血管を温存する末梢静脈カテーテル留置技術の実装, 阿部麻里代表, 村山陵子分担, 2022-2025年度, 2022年度分 担金 100千円

その他の助成金

- 「2022年度 教員研究助成」, 脳卒中入院患者の失禁関連皮膚炎の院内発生率およびその発生要因の推定, 須釜淳子代表 光田益士分担, 2022年度, 1,120千円
- 「令和4年度 日本創傷オストミー失禁管理学会研究助成」, 光田益士代表, 2022年度, 500千円
- 「2022年度 循環器疾患看護研究助成」, 小児リンパ浮腫患者のLYMPHOQOL日本語版尺度の妥当性の検証, 臺美佐子, 間脇彩奈, 須釜淳子, 200千円
- 「(公財)テルモ生命科学振興財団 2022年度研究開発助成金, 研究助成(看護の研究)」, リンパ浮腫管理のためのエコーケアアルゴリズムの考案と効果検証. 臺美佐子, 須釜淳子, 大高洋平, 中野有子, 片方容子, 1,000千円
- 「日本看護協会 感染拡大に備える看護提供体制の確保に関する調査研究助成」, 高度急性期病院における新型コロナウイルス感染拡大に伴う看護提供体制の変化が医療の質、看護師の労務状況に及ぼす影響分析, 小柳礼恵, 高井亜希, 佐野友香, 眞

野恵子, 須釜淳子, 2022-2023年, 178千円

「内閣府 先端的服务の開発・構築等に関する調査事業」, ポータブル超音波診断装置の活用による在宅ケアでの看護アセスメント社会実装実験, 須釜淳子, 三浦由佳, 金田嘉清, 都築晃, 松下寛代, 他, 25,657千円

受託研究・共同研究・奨学寄付金

共同研究, 日本製紙クレシア株式会社, 光田益士・須釜淳子, 金額非開示

受託研究, アルケア株式会社, 光田益士, 500 千円

奨学寄付金, アルケア株式会社, 光田益士, 4,000 千円

奨学寄付金, シーホネンス株式会社, 光田益士, 8,500 千円

7. 研究業績

<発表論文>

Sugama J, Ishibasi M, Ota M, Kamakura Y, Saito E, Sanada H, Nakayama T, Nomura T, Yamada M, Nakagami G, Sato N, Shibata S, Hase T, Fukada J, Miki T, Arita M, Urai T, Okawa Y, Kitamura A, Dai M, Takahashi T, Tamai T, Tobida I, Noguchi H, Matsumoto M, Miura Y, Mukai K, Mugita Y, Yoshida M, Kurachi M, Sirasaka T, Yamane Y. Japanese clinical practice guidelines for aspiration and pharyngeal residual assessment during eating and swallowing for nursing care. *Japan Journal of Nursing Science*. 2022; 19 (4): e12496. doi: 10.1111/jjns.12496. Epub 2022 Jun 18.

Kohta M, Murooka Y, Soma S, Ono D, Sugama J, Nemoto H. Reducing effects of dressing materials on pressure and shear force for preventing heel pressure injury: An experimental study using three-axis tactile sensor. *Journal of Nursing Science and Engineering*. 2022; 9: 153-161.

Yamasaki M, Kohta M, Miki T, Tamura S, Ishitani T, Ikoma T, Ishiyama Y, Kaigawa M, Sugama J, Mano K. Incidence and patient characteristics of aspiration pneumonia using a nursing screening model in an acute hospital. *Journal of Nursing Science and Engineering*. 2022; 9: 190-200.

中村義徳, 光田益士. 褥瘡管理における外力に対する考え方. *日本褥瘡学会誌*. 2022; 24 (2): 159.

Kohta M, Urai T, Supriadi, Sugama J. Multilayered silicone foam dressings potentially used for preventing recurrence of pressure injuries: A laboratory-to-clinical bedside study. *Japan Journal of Nursing Science*. 2022; 20(1): e12504. doi: 10.1111/jjns.12504. Epub 2022 Jun 30.

Takahiro K, Sugama J. Relationship between mattress internal air pressure and interface pressure distribution in the lateral position. *International Wound*

- Journal. 2022; 19(8): 2115–2123. doi:10.1111/iwj.13817.
- Shintani Y, Murayama R, Abe-doi M, Sanada H. Incidence, causes, and timing of peripheral intravenous catheter failure related to insertion timing in the treatment cycle in patients with hematological malignancies: a prospective descriptive study. *Japan Journal of Nursing Science*. 2022; e12484. doi: 10.1111/jjns.12484.
- Takahashi T, Nakagami G, Murayama R, Mari Abe-doi, Masaru Matsumoto, Hiromi Sanada. Automatic vein measurement by ultrasonography to prevent peripheral intravenous catheter failure for clinical practice using artificial intelligence: development and evaluation study of an automatic detection method based on deep learning. *BMJ Open*. 2022; 12: e051466. doi: 10.1136/bmjopen-2021-051466.
- Sayumi T, Aya S, Terumi U, Misako D, Mayumi O. Effects of Vibration on Chronic Leg Edema in Chair-bound Older Adults: A Pilot Trial. *Lymphoedema Research and Practice*. *Lymphoedema Research and Practice*. 2022; 9(1): 14-24.
- 小柳礼恵, 奥田裕美. 小児専門病院における医療関連機器圧迫創傷の原因医療機器別の発生部位, リスク要因の分析. *日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌*. 2022; 26: 29-35.
- 田中秀子, 土田敏恵, 飯坂真司, 小柳礼恵, 酒井透江, 佐藤文, 真田弘美, 須釜淳子, 間宮直子, 宮前奈央, 渡辺光子, 渡邊光子. 座長まとめ／創傷・オストミー・失禁 (WOC 専門外来全国調査報告／WOC 領域における専門外来の現状と将来展望. *日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌*. 2022; 26: 1-5.
- Susuki T, Kida R, Takemura Y, Ichikawa N, Kunie K, & Koyanagi H. Work-related communication mediates the relationship between perceived diversity climate and psychological empowerment among part-time nurses: a cross-sectional study. *Journal of Nursing Management*. 2022; 30: 3041-3050.
- Tanabe H, Oosawa K, Miura M, Mizuno S, Yokota T, Ueda T, Zushi Y, Misako Nagata, Murayama R, Abe-doi M, Sanada H. Effect of a thin-tipped short bevel needle for peripheral intravenous access on the compressive deformation and displacement of the vein: A preclinical study, *Journal of Vascular Access*. 2022; doi: 10.1177/11297298221075169.
- Murayama R, Oyama H, Abe-doi M, Masamoto Y, Kashiwabara K, Tobe H, Komiyama C, Sanada H, Kurokawa M. Safety verification of a new peripheral intravenous catheter placed in the upper arm vein for administration of drugs with high irritant potential. *Drug Discoveries & Therapeutics*. 2022; 16(3): 128-134. doi: 10.5582/ddt.2022.01034.
- Sawada S, Takemura Y, Isobe T, Koyanagi H, Kida R. Perceived impact of nurse turnover on the organization: A Delphi study on managers of nursing. *Journal*

- of Nursing Management. 2022; doi:10.1111/jonm.13738.
- Kimori K, Aoki S, Tatsuta H, Dai M. Influence of head-of-bed elevation on the measurement of inferior vena cava size using a pocket-sized ultrasound device in healthy male volunteers. *Journal of Nursing Science and Engineering*. 2022; 10: 22-30. https://doi.org/10.24462/jnse.10.0_22.
- Dai M, Yamashita S, Okazaki M, Kimori K, Sanada H, Sugama J. Real-time image-sharing education for self-care to wearing elastic stockings in a lymphoedema patient: A case study. *British Journal of Nursing*. 2022; 31(15): S22-S29. doi: 10.12968/bjon.2022.31.15.S22.
- Qin Q, Nakagami G, Ohashi Y, Dai M, Sanada H, Oe M. Development of a self-monitoring tool for diabetic foot prevention using smartphone-based thermography: Plantar thermal pattern changes and usability in the home environment. *Drug Discoveries & Therapeutics*. 2022; 16(4): 169-176. doi: 10.5582/ddt.2022.01050.
- 西本由美, 新石健二, 小町茉亜莉, 太田裕子, 中田晴美, 湯野智香子, 山作三枝子, 西田敏美, 桂英之, 須釜淳子, A 病院の入院患者における皮膚表在性真菌感染症の発生リスク要因の検討. *日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌*. 2022; 26: 241-247.
- Takemura Y, Inoue M, Ichikawa N, Kida R, Koyanagi H, Ikezaki S, and Ikeda M. Key Strategies for Managing Nursing Care under the COVID-19 Pandemic: A Multiple Case Study of Nursing Directors. *Journal of Nursing Management*. 2022; 30(8): 4042-4053. doi: 10.1111/jonm.13844. Epub 2022 Oct 12.
- 小柳礼恵. 【看護ビッグデータの利活用の現状と展望】(3章)病院間で共有すべきデータ. *看護理工学会誌*. 2022; 9: S8-S10.
- 西本由美, 新石健二, 小町茉亜莉, 太田裕子, 中田晴美, 湯野智香子, 山作三枝子, 西田敏美, 桂英之, 須釜淳子, A 病院の入院患者における皮膚表在性真菌感染症の発生リスク要因の検討. *日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌*. 2022; 26: 241-247.
- Imakata Y, Sugama J, Okuwa M, Kayahara M, Munemoto M, Sakakura K, Yamamori Y, Dake K, Edo C, Oe M. Clinical features of lower limb edema in patients with breast cancer who underwent docetaxel chemotherapy: a retrospective observational study. *Journal of Japanese Society of Wound, Ostomy and Continence Management*. 2022; 26: 269-277.
- Shimura T, Nakagami G, Ogawa R, Ono S, Takahashi S, Nagata M, Kashiwabara K, Sugama J, Samada H, Oe M. Incidence of and risk factors for self-load-related and medical device-related pressure injuries in critically ill patients: a prospective observational study. *Wound Repair and Regeneration*. Reg. 2022; 30(4): 453-467. doi: 10.1111/wrr.13022. Epub 2022 Jun 2.
- Oohashi F, Imakata Y, Suzuki Y, Sugama J. Interventions for the management of lower extremity edema in the elderly people: a review. *Lymphoedema Research*

and Practice. 2022; 9: 1-12.

Nagata Y, Tanaka K, Takahashi Y, Asada Y, Shimpuku Y, Yoshinaga N, Sugama J. Support nursing researchers' need academic societies during COVID-19: A cross-sectional survey. Nursing & Health Sciences. 2022; 24(4): 871-881. doi: 10.1111/nhs.12988. Epub 2022 Oct 19.

<学会発表>

Misako Dai. Lymphedema severity classification using ultrasound imaging.

Symposium, WUWHS2022 (Mar 1-5, Abudabi and online)

Qi Qin, Makoto Oe, Yumiko Ohashi, Misako Dai, Gojiro Nakagami, Hiromi Sanada. Feasibility of smartphone thermography for risk assessment of diabetic foot ulcers in home settings. 一般演題英語セッション口演, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 (2022年5月20-21日, オンライン)

神納美保, 臺美佐子, 伊藤佳織, 秋吉麻紀, 野田早智恵, 山村真巳, 高井亜希, 河田健司, 眞野恵好. 看護師による抗がん剤治療の血管確保と血管外漏出の実態調査. 第8回日本医療安全学会学術集会 (2022年6月11-12日, 静岡県浜松市)

臺美佐子, 小川佳宏, 高西裕子, 村山祐子, 須釜淳子. がん術後の下肢リンパ浮腫患者に対するセルフケアサポートとしての接触冷感性を有する弾性ストッキングの主観的温冷効果. 一般演題示説, 第7回日本がんサポーターズ学会学術集会 (2022年6月18-19日, オンライン)

小柳礼恵. 超高齢社会における高齢者のストーマケア:地域包括ケアシステムを踏まえたストーマ造設患者の支援. シンポジウム, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 (2022年5月20-21日, オンライン)

Nao Miyamae, Junko Sugama, Makoto Oe. Clinical features of edema in patients with breast cancer receiving docetaxel: A scoping review. 一般演題英語セッション口演, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 (2022年5月20-21日, オンライン)

板橋みずほ, 玉井奈緒, 三浦由佳, 仲上豪二郎, 下澤達雄, 角田誠, 鈴木基文, 井口靖弘, 眞田弘美. オムツ内における尿路感染症同定を目的とした初尿中バイオマーカーの妥当性検証. 助成金採択演題, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 (2022年5月20-21日, オンライン)

光田益士, 小柳礼恵, 西川圭二, 稲垣喜信, 田村茂, 石川幸, 大高洋平, 松本省二, 杉浦一充, 眞野恵子, 須釜淳子. 脳卒中入院患者に対する失禁関連皮膚炎の有病率と患者特性:パイロット研究. 第54回藤田医科大学医学会学術大会 (2022年6月2日, 愛知県豊明市)

河崎明子, 林千恵子, 佐々木早苗, 宇野光子, 久米春喜, 小柳礼恵. 当院における排尿自立支援の現状と課題. 第35回日本老年泌尿器科学会学術集会 (2022年6月10日, 山梨県甲府市)

小柳礼恵, 河崎明子, 久米春喜. ロボット支援根治的前立腺全摘出術(RARP)後患者の在院日数への影響因子の分析. 第 35 回日本老年泌尿器科学会学術集会 (2022 年 6 月 11 日, 山梨県甲府市)

仲上豪二郎, 玉井奈緒, 村山陵子, 峰松健夫, 松本勝, 阿部麻里, 高橋聡明, 真田弘美. 文科省 DX 補正予算はこう活用しよう! 看護基礎教育で身に着きたいエコーを用いた老年看護のフィジカルアセスメント技法. 交流集会, 第 27 回日本老年看護学会学術集会 (2022 年 6 月 25 日, オンライン)

光田益士, 須釜淳子. 在宅での褥瘡予防の普及を目指した評価尺度の開発. 保健医療福祉における普及と実装科学研究会 第 8 回学術集会 (2022 年 7 月 9 日, オンライン)

小柳礼恵. 小児患者の医療関連機器圧迫創傷の現状と対策. パネルディスカッション 1 小児の褥瘡, MDRPU の現状と対策について. 第 24 回日本褥瘡学会学術集会 (2022 年 8 月 27 日, 神奈川県横浜市)

小柳礼恵, 中村雅恵, 須釜淳子. 二分脊椎患児の成長発達段階における褥瘡発生要因の検討. Award・Grant 選考委員会企画, 第 24 回日本褥瘡学会学術集会 (2022 年 8 月 28 日, 神奈川県横浜市)

高井亜希, 佐野友香, 小柳礼恵, 眞野恵好. A 大学関連病院看護師における看護研究ニーズ調査と今後の課題. 第 26 回日本看護管理学会学術集会 (2022 年 8 月 19-20 日, 福岡県福岡市)

臺美佐子, 山下修二, 楊睿, 間脇彩奈, 岡崎睦, 須釜淳子. リンパ浮腫ケア選定のためのエコーアルゴリズムの考案と実装. 第 6 回日本リンパ浮腫治療学会学術総会 (2022 年 9 月 3-4 日, 東京都新宿区, ハイブリット)

三浦由佳, 玉井奈緒, 松本勝, 永田みさ子, 須釜淳子, 真田弘美. パネルディスカッション 3 「The 嚥下エコー」, 誤嚥と残留物を可視化する嚥下エコーのこれまでと将来展望. 第 28 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 (2022 年 9 月 24 日, 千葉県千葉市)

田村茂, 山崎美代, 生駒俊裕, 石谷朋紀, 曾川美冬, 光田益士, 三浦由佳, 眞野恵好. リクライニング角度表示及びヘッドリフト機能付きベッドによる姿勢調整の再現性の検討. 第 28 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 (2022 年 9 月 23 日, 千葉県千葉市)

水谷洋, 臺美佐子, 神納美保, 西田洋, 角矢智恵, 高井亜希, 齊藤泰紀, 林真也, 須釜淳子, 眞野恵好. 前立腺がんに対する強度変調放射線治療期間中の Cone-beam CT における直腸内容物と直腸面積. 第 10 回看護理工学会学術集会 (2022 年 10 月 15 日, 東京都江東区)

山崎美代, 光田益士, 三鬼達人, 田村茂, 石谷朋紀, 生駒俊裕, 石山友貴, 曾川美冬, 佐野友香, 須釜淳子, 眞野恵好. 急性期病院における看護スクリーニングフローチャートを用いた誤嚥性肺炎の発症率と患者特性. 第 10 回看護理工学会 (2022 年 10 月 15 日, 東京江東区)

- 玉井奈緒, 板橋みずほ, 三浦由佳, 河本敦夫, 永田みさ子, 松本勝, 真田弘美. 成人・高齢者における尿路感染症とエコーを用いた膀胱内沈殿物所見の関係探索. 第 10 回看護理工学会学術集会 (2022 年 10 月 15 日, 東京都江東区)
- 板橋みずほ, 玉井奈緒, 三浦由佳, 峰松健夫, 仲上豪二郎, 下澤達雄, 角田誠, 鈴木基文, 井口靖浩, 真田弘美. おむつ内センサーを用いた尿路感染症アセスメントを目的とした初尿中バイオマーカーの治療反応性検討. 第 10 回看護理工学会学術集会 (2022 年 10 月 16 日, 東京都江東区)
- 三浦由佳, 玉井奈緒, 松本勝, 北村言, 村山陵子, 阿部麻里, 高橋聡明, 麦田裕子, 永田みさ子, 小路和幸, 仲上豪二郎, 須釜淳子, 紺家千津子, 真田弘美. エコーを用いた排泄ケア実装の促進要因と阻害要因. 第 10 回看護理工学会学術集会 (2022 年 10 月 16 日, 東京都大田区)
- 加藤頼子, 藤井隆夫, 織田友香, 平田善彦, 平大輔, 峰松健夫, 臺美佐子, 仲上豪二郎, 國光真生, 真田弘美. 褥瘡患者の創部細菌叢と予後との関連の予備的検討: 次世代シーケンサーによるメタ 16S 解析と機械学習. 第 74 回日本生物工学会大会 (2022 年 10 月 17-19 日, オンライン)
- 河村愛, 臺美佐子, 神納美保, 野田早智恵, 宇野みゆき, 近藤千恵, 水谷洋, 高井亜希, 須釜淳子, 眞野恵好. 緩和ケア領域におけるがん性疼痛を有する浮腫患者に対する簡易リンパドレージの有効性: 症例検討. 第 11 回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会 (2022 年 11 月 5 日, オンライン)
- 宇野みゆき, 臺美佐子, 神納美保, 野田早智恵, 近藤千恵, 河村愛, 水谷洋, 高井亜希, 須釜淳子, 眞野恵好. がん終末期のリンパ漏セルフケア難渋症例に対する医療機関・地域間連携によるアプローチ. 第 11 回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会 (2022 年 11 月 5 日, オンライン)
- 臺美佐子. 多職種連携における看護師の浮腫アセスメント. パネルディスカッション, 第 11 回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会 (2022 年 11 月 5 日, オンライン)
- 高橋聡明, 仲上豪二郎, 村山陵子, 阿部麻里, 真田弘美. 超音波検査で観察された末梢静脈カテーテル留置直後の皮下浮腫は中途抜去の要因となる. 第 11 回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会 (2022 年 11 月 5 日, オンライン)
- 光田益士, 須釜淳子. 術後患者の傷あと満足度. シンポジウム 1, 第 52 回日本創傷治癒学会 (2022 年 11 月 19-20 日, 愛知県名古屋市)
- Liu Yu, Masushi Khota, Junko Sugama, Kimie Takehara. Effect of culture conditions on in vitro planktonic and biofilm growth of *S. aureus* with *C. albicans*. 第 52 回日本創傷治癒学会 (2022 年 11 月 19-20 日, 愛知県名古屋市)
- 三浦由佳, 森田光治良, 仲上豪二郎, 北村言, 須釜淳子, 真田弘美. 特定行為研修修了者の専門性が褥瘡治癒促進に及ぼす効果. 第 52 回日本創傷治癒学会 (2022 年 11 月 19-20 日, 愛知県名古屋市)

野村梨帆, 稲勝玲, 天願愛, 下屋聡平, 瀬戸菜月, 松原里奈, 星野舞, 高橋尚人, 小柳礼恵, 柘植美恵. 早産児の皮膚成熟過程の評価: 在胎 25 週台で出生した超早産児の 1 例. 第 52 回日本創傷治癒学会 (2022 年 11 月 19-20 日, 愛知県名古屋市)

鈴木由依子, 中島由加里, 中谷壽男, 大桑麻由美, 須釜淳子. 正常ラットの後肢リンパ系とリンパ流遮断後の迂回路との比較. 第 52 回日本創傷治癒学会 (2022 年 11 月 19-20 日, 愛知県名古屋市)

臺美佐子, 山下修二, 柳睿, 岡崎睦, 真田弘美, 須釜淳子. 原発性リンパ浮腫の足趾リンパ漏に対する保存療法と外科治療の専門職チームアプローチ: 症例報告. 第 52 回日本創傷治癒学会 (2022 年 11 月 19-20 日, 愛知県名古屋市)

熊谷あゆ美, 須釜淳子. 腹臥位手術における褥瘡予防のためのマットレスの硬さと圧力やずれ力の関係. 第 52 回日本創傷治癒学会 (2022 年 11 月 19-20 日, 愛知県名古屋市)

川崎美瑞良, 鈴木華代, 杉浦貴子, 樋口美恵子, 田崎敦子, 坂本ひとみ, 相原晶子, 祖父江嘉洋, 須釜淳子. カテーテル心筋焼灼術時の皮膚障害発生の検討. 第 52 回日本創傷治癒学会 (2022 年 11 月 19-20 日, 愛知県名古屋市)

菊池鏡平, 朱美恵, 前島直美, 村山陵子. 救命救急センターにおける ICU ダイアリーの効果. 第 42 回日本看護科学学会学術集会 (2022 年 12 月 3-4 日, 広島県広島市)

阿部麻里, 村山陵子, 高橋聡明, 松本勝, 玉井奈緒, 仲上豪二郎, 真田弘美. 末梢静脈カテーテル留置のための穿刺部位決定における AI によるエコー画像読影サポート機能の効果. 第 42 回日本看護科学学会学術集会 (2022 年 12 月 3-4 日, 広島県広島市)

織田千賀子, 中村小百合, 加藤睦美, 近藤彰, 村山陵子, 三浦由佳, 須釜淳子. 臨床判断能力の育成に向けた「VR×看図アプローチ」教材の導入—仲間に教えたいくなるそのヒミツ. 交流集会, 第 42 回日本看護科学学会学術集会 (2022 年 12 月 3-4 日, 広島県広島市)

三浦由佳, 玉井奈緒, 松本勝, 永田みさ子, 須釜淳子, 真田弘美. 日常生活行動「食べる」を支える看護ケアイノベーション. シンポジウム, 第 42 回日本看護科学学会学術集会 (2022 年 12 月 3-4 日, 広島県広島市)

影浦直子, 中畑ひとみ, 梅村慶子, 三吉友美子, 小柳礼恵, 須釜淳子. 心不全症状を増悪させないために熟練看護師が行っている看護実践. 第 42 回日本看護科学学会学術集会 (2022 年 12 月 3-4 日, 広島県広島市)

竹内さやか, 足立有衣, 板谷恵美子, 山田理, 西崎成紀, 鎌手菜摘, 富田雄郎, 小柳礼恵, 松浦俊博. 排便サポートチームが介入した便秘症状を有する認知症患者 2 症例介入評価: 事例研究. シンポジウム, 第 2 回慢性便秘エコー研究会 (2022 年 12 月 17 日, 東京都港区, ハイブリット)

<書籍など>

三浦由佳, 玉井奈緒, 松本勝, 永田みさ子, 真田弘美. 嚙下機能評価におけるエコー利用の可能性. 週間医学界新聞 (看護号) 第 3467 号 2022 年 4 月 25 日

臺美佐子. 陰部浮腫のアセスメントとケア. 月刊ナーシング, 2022 年 7 月号, p.77.

臺美佐子, 須釜淳子. 陰部浮腫の国際的トピックス. 月刊ナーシング, 2022 年 7 月号, p.78-82.

臺美佐子. 陰部浮腫のセルフケア支援. 月刊ナーシング, 2022 年 7 月号, p.98-100.

光田益土. ケアマネジャー用床ずれ危険度チェック表. ナースマガジン 40 号, p.24-25.

光田益土. ケアプランが変わる!在宅介護が変わる!床ずれ予防プログラム-床ずれ危険度チェック表を活かす. Chapter1 ケアマネジャー向けアセスメントスケール「床ずれ危険度チェック表」の活用. 株式会社 春恒社, 2022 年 7 月, p.2-5.

小柳礼恵. 陰部浮腫とスキンケア. 月刊ナーシング, 2022 年 7 月号, p.96-100.

<講演>

小柳礼恵. エクセレント排便管理に向けて: 排便管理向上のための具体策. アドホック委員会の活動 理事会企画, 第 31 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 (2022 年 5 月 20-21 日, オンライン)

臺美佐子, 須釜淳子. リンパ浮腫患者適用のアドバンスト弾性ストッキングの開発. 第 8 回学内研究シーズ・ニーズ発表交流会 (2022 年 6 月 3 日, 愛知県豊明市)

三田村今日子, 齋木由佳, 臺美佐子, 渡邊亜紀子, 高井亜紀, 瀬戸孝一, 須釜淳子, 芳野弘, 武地一, 眞野恵好. 身体拘束実施率減少に向けた管類自己抜去予防ハートフル病衣の開発. 第 8 回学内研究シーズ・ニーズ発表交流会 (2022 年 6 月 3 日, 愛知県豊明市)

近藤千恵, 臺美佐子, 神納美保, 野田早智恵, 宇野みゆき, 水谷洋. がん患者の治療期から緩和ケアを実践して~治療過程における ACP 介入の実際~. 第 8 回学内研究シーズ・ニーズ発表交流会 (2022 年 6 月 3 日, 愛知県豊明市)

小柳礼恵, 佐野友香, 須釜淳子. ベッドサイドにおける携帯型超音波エコーを用いた便秘患者の有効なアセスメント技術の活用. 第 8 回学内研究シーズ・ニーズ発表交流会 (2022 年 6 月 3 日, 愛知県豊明市)

須釜淳子. 褥瘡再発予防に向けて. 第 17 回日本褥瘡学会中部地方会学術集会教育講演 (2022 年 6 月 12 日, 愛知県名古屋市)

光田益土, 岩瀬敬佑, 須釜淳子. 地域包括ケアにおける社会実装を目指した異分野融合による褥瘡予防. 第 8 回学内研究シーズ・ニーズ発表交流会 (2022 年 6 月 3 日, 愛知県豊明市)

臺美佐子. 多職種リレーで繋ぐリンパ浮腫管理 基本から実践まで. ナラティブクリニックみどり診療所 リンパ浮腫勉強会 (2022 年 8 月 25 日, オンライン)

須釜淳子. ドレッシング材に求められる機能とその基礎評価. スイーツセミナー3 ず

れ・摩擦，マイクロクライメットに着目した褥瘡予防，第 24 回日本褥瘡学会学術集会（2022 年 8 月 27 日，神奈川県横浜市）

Misako Dai. Ultrasonographic assessment to improve nursing practice in lymphedema management. Online Seminar for Intercultural Nursing Faculty of Nursing Fujita Health University and Faculty of Nursing, Khon Kaen University. Special lecture（2022 年 8 月 30 日，オンライン）

臺美佐子. リンパ浮腫の管理：基本編. 藤田医科大学病院緩和ケアセンター勉強会（2022 年 8 月 31 日）

村山陵子. エコーがあればできる！“見える”を活かす末梢静脈カテーテル留置. 共催セミナー（ニチバン株式会社），第 10 回看護理工学会（2022 年 10 月 15 日，東京都大田区）

須釜淳子. 現理事長の描く将来構想. シンポジウム 2 看護理工学会 これまでとこれから. 第 10 回看護理工学会学術集会（2022 年 10 月 16 日，東京都江東区）

須釜淳子. 褥瘡ケアにおける社会実装. 大会長講演，第 52 回日本創傷治癒学会（2022 年 11 月 19-20 日，愛知県名古屋市）

光田益士. 多層シリコンフォームドレッシング材による褥瘡予防：看護理工学的視点からの新たな評価技術. 会長企画講演，第 52 回日本創傷治癒学会（2022 年 11 月 19-20 日，愛知県名古屋市）

須釜淳子. ケアのイノベーションを目指す看護理工学. 基調講演，第 42 回日本看護科学学会学術集会（2022 年 12 月 3-4 日，広島県広島市）

須釜淳子. 新規ガイドラインの全体像と体制. 理事会企画，第 42 回日本看護科学学会学術集会（2022 年 12 月 3-4 日，広島県広島市）

<受賞>

優秀演題賞：臺美佐子，山下修二，楊睿，間脇彩奈，岡崎睦，須釜淳子. リンパ浮腫ケア選定のためのエコーアルゴリズムの考案と実装，第 6 回日本リンパ浮腫治療学会学術総会（一般演題口演，2022 年 9 月 3-4 日，東京都新宿区<ハイブリッド>）

学術論文優秀賞：Abe-doi M, Murayama R, Kawamoto A, Komiyama C, Doorenbos A, Sanada H. Damage to subcutaneous tissue at the catheterization site during chemotherapy: A prospective observational study using ultrasonography. Japan Journal of Nursing Science. 第 42 回日本看護科学学会（2022 年 12 月 3 日，広島県広島市）

社会実装看護創成研究センター 2022 年報

発行年月日：2022 年 12 月 31 日

発行責任者：〒470-1192

愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1 番地 98

藤田医科大学研究推進本部 イノベーション推進部門

社会実装看護創成研究センター

須釜淳子
